

桑野塾

桑野塾 検索

<http://deracine.foo.jp/kuwanojuku/>

大学などの研究者に限らず、興味を持って研究していることを自由に発表しあう「広場」です。どなたでもご参加いただけます。それぞれの興味が少しずつ重なり合うことで、新たな知見を見いだそうという場です。

第16回

2013年
5月11日(土)
15:00 ~ 18:00

早稲田大学 早稲田キャンパス16号館 820号室

- ★ どなたでもご参加いただけます。会場に直接お越しください。参加無料。
- ☆ 終了後、近くの居酒屋で懇親会を開催します。(飲食費は別途)
- ※予約の都合上、懇親会参加をご希望の方はなるべく事前にご連絡いただくと助かります。
- ※報告者・タイトルは変更の可能性もあります。ご了承ください。



忠犬ならぬ地下鉄“ハチ公”

報告者: 門田 直人

モスクワっ子に愛された野良犬の銅像

2001年までモスクワの地下鉄構内をすみかとした、ただの野良犬だが、人なつこいしぐさが通勤客の心をなごませ、誰からもエサを与えられる人気者になった。駅員らは親しみを込め「マーリチク(少年)」と呼んだ。ある日、精神を病んだ通勤客の女性(26)がマーリチクをナイフで刺殺した。その日以来、マーリチクのすんでいた場所には花とともに募金箱が置かれ、4年ほどで約15,000(約140万円)ドルが集まった。2005年、この金でマーリチクの像を造ることが決まり、像は完成。2007年2月、除幕式が開かれた。式では「世界中で野良犬のために像を造ったのはここが初めて。名所になるだろう」と称賛の声が上がった。

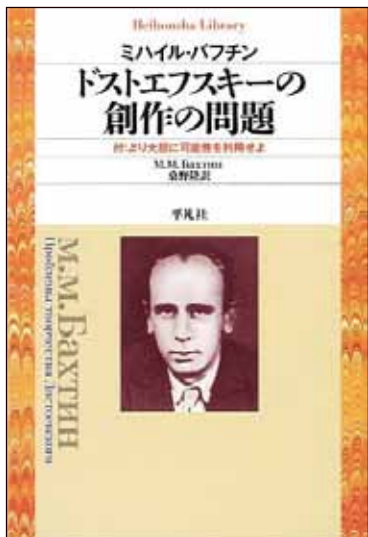
門田 直人(東京新聞社勤務・元モスクワ支局長)



モスクワの地下鉄メンデレーエフ駅に置かれた野良犬の像
ロシア版Wikipedia(<http://ru.wikipedia.org/>)“Сочувствие (памятник)”より(2点とも)

バフチン『ドストエフスキーの創作の問題』を読む

報告者: 桑野 隆



桑野隆が語る“難解な”最新訳書の全貌とは――

バフチンのドストエフスキー論と言えば、まず思い浮かぶのはポリフォニー論やカーニバル論であろう。これにたいして、今回翻訳した『ドストエフスキーの創作の問題』(1929)は、「ポリフォニー小説」と「言葉」の二部構成になっており、カーニバル論がまだない。それだけでなく全体の内容も、既訳がある増補改訂版『ドストエフスキーの詩学の問題』(1963)にくらべて凝縮度が高く、読者もそのぶん「骨が折れる」かもしれない。となれば、敢えて『ドストエフスキーの創作の問題』を訳す意味はどこにあるのだろうか。

その辺のところを、訳語の選択理由や二つの版の相違点などにも触れながら、できるかぎり平易に語ってみたい。

桑野 隆(早稲田大学教授)

平凡社ライブラリー 783
『ドストエフスキーの創作の問題 付: より大胆に可能性を利用せよ』
ミハイル・バフチン=著/桑野隆=訳
定価: 1,575 円(本体: 1,500 円)/HL判/384頁/2013年3月刊
ISBN978-4-582-76783-4